

生命科学学院 生命科学専攻(修士課程) アセスメント・チェックリスト

生命科学学院生命科学専攻(修士課程)の学位授与水準(DP)

DP1	生命科学分野における広範で深い知識と応用展開について思考できる能力
DP2	高度先進科学研究の応用にも対応できる技術力
DP3	研究者・技術者にとって必須である生命倫理・知的財産に関する基本的知識
DP4	国際的に通用するコミュニケーション能力・プレゼンテーションスキル

番号	名称	実施時期	周期	対象	内容、質問項目等	手法	評価者	結果の活用方法	実施者
1	授業アンケート	5月,7月,11月,1月	毎年	(修士)1~2年生	・授業の満足度 ・授業の理解度 ・学習状況	質問紙(マークシート)	学生	集計結果を学内に開示して今後の教育方法改善の参考とする	生命科学学院 生命科学専攻
2	成績評価	4月, 9月	毎年	(修士)1~2年生	・成績の点検	履修指導時に点検する	学生指導関係 教員	成績をもとに履修指導を行う。	生命科学学院 生命科学専攻
3	大学院生調査	随時	1年に 1回	(修士)1~2年生	・学習状況 ・コンピテンシーの習熟度	Webアンケートシステム	学生	教職員に開示して今後の教育制度改善の参考とする。	総合IR室
4	修了時調査	2~3月	毎年	(修士)2年生	・カリキュラム, 研究指導の満足度等	Webアンケートシステム	学生	専門科目のカリキュラム改善の参考とする。	生命科学学院 生命科学専攻
5	修了生調査	適宜	適宜	修了生全般	・大学院教育の有用性と現在の状況	質問紙	修了生	教職員に開示してカリキュラム改善の参考とする。	生命科学学院 生命科学専攻
6	DP達成調査	修了判定時	毎年	(修士)2年生	DP達成の点検	修了判定時に点検する	学生指導関係 教員	調査結果を教員が共有して今後の教育方法改善の参考とする。	生命科学学院 生命科学専攻
7	企業等調査 (就職先調査)	1~3月	3年に 1回	修了生の就職先	・企業等からのアドバイス	質問紙	企業等の職員	評価結果を教職員に開示してカリキュラム改善の参考とする。	総合IR室
8	DPIによるカリキュラム点検	随時	適宜	カリキュラム	・DPを実現できるカリキュラムになっているかの点検	ナンバリング, カリキュラムマップなどによるDPとカリキュラムの相互参照	学生指導関係 教員	DPとカリキュラムのバランスが悪い場合はいずれかを調節する。	生命科学学院自己点検・ 評価委員会

生命科学院 ソフトマター専攻(修士課程) アセスメント・チェックリスト

生命科学院ソフトマター専攻(修士課程)の学位授与水準(DP)

DP1	ソフトマター分野における広範で深い知識と応用展開について思考できる能力
DP2	高度先進科学研究の応用にも対応できる技術力
DP3	国際的に通用するコミュニケーション能力・プレゼンテーションスキル

番号	名称	実施時期	周期	対象	内容, 質問項目等	手法	評価者	結果の活用方法	実施者
1	授業アンケート	5月,7月,11月,1月	毎年	(修士)1~2年生	・授業の満足度 ・授業の理解度 ・学習状況	質問紙(マークシート)	学生	集計結果を学内に開示して今後の教育方法改善の参考とする	生命科学院 ソフトマター専攻
2	成績評価	4月, 9月	毎年	(修士)1~2年生	・成績の点検	履修指導時に点検する	学生指導関係 教員	成績をもとに履修指導を行う。	生命科学院 ソフトマター専攻
3	大学院生調査	随時	1年に 1回	(修士)1~2年生	・学習状況 ・コンピテンシーの習熟度	Webアンケートシステム	学生	教職員に開示して今後の教育制度改善の参考とする。	総合IR室
4	修了時調査	2~3月	毎年	(修士)2年生	・カリキュラム, 研究指導の満足度等	Webアンケートシステム	学生	専門科目のカリキュラム改善の参考とする。	生命科学院 ソフトマター専攻
5	修了生調査	適宜	適宜	修了生全般	・大学院教育の有用性と現在の状況	質問紙	修了生	教職員に開示してカリキュラム改善の参考とする。	生命科学院 ソフトマター専攻
6	DP達成調査	修了判定時	毎年	(修士)2年生	DP達成の点検	修了判定時に点検する	学生指導関係 教員	調査結果を教員が共有して今後の教育方法改善の参考とする。	生命科学院 ソフトマター専攻
7	企業等調査 (就職先調査)	1~3月	3年に 1回	修了生の就職先	・企業等からのアドバイス	質問紙	企業等の職員	評価結果を教職員に開示してカリキュラム改善の参考とする。	総合IR室
8	DPによるカリキュラム点検	随時	適宜	カリキュラム	・DPを実現できるカリキュラムになっているかの点検	ナンバリング, カリキュラムマップなどによるDPとカリキュラムの相互参照	学生指導関係 教員	DPとカリキュラムのバランスが悪い場合はいずれかを調節する。	生命科学院自己点検・ 評価委員会

生命科学学院 生命科学専攻(博士後期課程) アセスメント・チェックリスト

生命科学学院生命科学専攻(博士後期課程)の学位授与水準(DP)

DP1	自立して研究活動を行うための基礎となる豊かな学識, 研究立案能力, 分析能力, 応用能力
DP2	高度で独創性の高い研究を遂行するために必要な知識と技術力
DP3	国際的な先端的生命科学の研究及び開発の場で, リーダーシップを発揮し関わっていくことができる能力

番号	名称	実施時期	周期	対象	内容, 質問項目等	手法	評価者	結果の活用方法	実施者
1	成績評価	4月, 9月	毎年	(博士)1~3年生	・成績の点検	履修指導時に点検する	学生指導関係 教員	成績をもとに履修指導を行う。	生命科学学院 生命科学専攻
2	大学院生調査	随時	1年に 1回	(博士)1~3年生	・学習状況 ・コンピテンシーの習熟度	Webアンケートシステム	学生	教職員に開示して今後の教育制度改善の参考とする。	総合IR室
3	修了時調査	2~3月	毎年	(博士)3年生	・カリキュラム, 研究指導の満足度等	Webアンケートシステム	学生	専門科目のカリキュラム改善の参考とする。	生命科学学院 生命科学専攻
4	修了生調査	適宜	適宜	修了生全般	・大学院教育の有用性と現在の状況	質問紙	修了生	教職員に開示してカリキュラム改善の参考とする。	生命科学学院 生命科学専攻
5	DP達成調査	修了判定時	毎年	(博士)3年生	DP達成の点検	修了判定時に点検する	学生指導関係 教員	調査結果を教員が共有して今後の教育方法改善の参考とする。	生命科学学院 生命科学専攻
6	企業等調査 (就職先調査)	1~3月	3年に 1回	修了生の就職先	・企業等からのアドバイス	質問紙	企業等の職員	評価結果を教職員に開示してカリキュラム改善の参考とする。	総合IR室
7	DPによるカリキュラム点検	随時	適宜	カリキュラム	・DPを実現できるカリキュラムになっているかの点検	ナンバリング, カリキュラムマップなどによるDPとカリキュラムの相互参照	学生指導関係 教員	DPとカリキュラムのバランスが悪い場合はいずれかを調節する。	生命科学学院自己点検・ 評価委員会

生命科学院 ソフトマター専攻(博士後期課程) アセスメント・チェックリスト

生命科学院ソフトマター専攻(博士後期課程)の学位授与水準(DP)

DP1	自立して研究活動を行うための基礎となる豊かな学識, 研究立案能力, 分析能力, 応用能力
DP2	国際的な先端的ソフトマター科学の研究及び開発の場で, リーダーシップを発揮し関わっていくことができる能力

番号	名称	実施時期	周期	対象	内容, 質問項目等	手法	評価者	結果の活用方法	実施者
1	成績評価	4月, 9月	毎年	(博士)1~3年生	・成績の点検	履修指導時に点検する	学生指導関係 教員	成績をもとに履修指導を行う。	生命科学院 ソフトマター専攻
2	大学院生調査	随時	1年に 1回	(博士)1~3年生	・学習状況 ・コンピテンシーの習熟度	Webアンケートシステム	学生	教職員に開示して今後の教育制度改善の参考とする。	総合IR室
3	修了時調査	2~3月	毎年	(博士)3年生	・カリキュラム, 研究指導の満足度等	Webアンケートシステム	学生	専門科目のカリキュラム改善の参考とする。	生命科学院 ソフトマター専攻
4	修了生調査	適宜	適宜	修了生全般	・大学院教育の有用性と現在の状況	質問紙	修了生	教職員に開示してカリキュラム改善の参考とする。	生命科学院 ソフトマター専攻
5	DP達成調査	修了判定時	毎年	(博士)3年生	DP達成の点検	修了判定時に点検する	学生指導関係 教員	調査結果を教員が共有して今後の教育方法改善の参考とする。	生命科学院 ソフトマター専攻
6	企業等調査 (就職先調査)	1~3月	3年に 1回	修了生の就職先	・企業等からのアドバイス	質問紙	企業等の職員	評価結果を教職員に開示してカリキュラム改善の参考とする。	総合IR室
7	DPIによるカリキュラム点検	随時	適宜	カリキュラム	・DPを実現できるカリキュラムになっているかの点検	ナンバリング, カリキュラムマップなどによるDPとカリキュラムの相互参照	学生指導関係 教員	DPとカリキュラムのバランスが悪い場合はいずれかを調節する。	生命科学院自己点検・ 評価委員会

生命科学院 臨床薬学専攻(博士課程) アセスメント・チェックリスト

生命科学院臨床薬学専攻(博士課程)の学位授与水準(DP)

DP1	自立して研究活動を行うための基礎となる豊かな学識, 研究立案能力, 分析能力, 応用能力
DP2	国際的に通用するコミュニケーション能力, プレゼンテーションスキル
DP3	高い倫理性を持ち, 専門性の高い臨床薬学の知識や技能を必要とする職域において, リーダーシップを発揮し関わっていく能力

番号	名称	実施時期	周期	対象	内容, 質問項目等	手法	評価者	結果の活用方法	実施者
1	成績評価	4月, 9月	毎年	(博士)1~4年生	・成績の点検	履修指導時に点検する	学生指導関係 教員	成績をもとに履修指導を行う。	生命科学院 臨床薬学専攻
2	DP達成調査	修了判定時	毎年	(博士)4年生	DP達成の点検	修了判定時に点検する	学生指導関係 教員	調査結果を教員が共有して今後の教育方法改善の参考とする。	生命科学院 臨床薬学専攻
3	企業等調査 (就職先調査)	1~3月	3年に 1回	修了生の就職先	・企業等からのアドバイス	質問紙	企業等の職員	評価結果を教職員に開示してカリキュラム改善の参考とする。	総合IR室
4	DPによるカリキュラム点検	随時	適宜	カリキュラム	・DPを実現できるカリキュラムになっているかの点検	ナンバリング, カリキュラムマップなどによるDPとカリキュラムの相互参照	学生指導関係 教員	DPとカリキュラムのバランスが悪い場合はいずれかを調節する。	生命科学院自己点検・ 評価委員会